

小泉嘉四郎

こいずみ・かしろう

舞台設計家、国立劇場建築主査、東海大学教授、工学博士

経歴

生: 明治44年(1911年)1月7日、広島県福山市大黒町生まれ

没: 1995年(平成7年)、享年85歳

昭和3年(1928年)	18歳	広島県立福山誠之館中学校卒業
昭和7年(1932年)	22歳	第六高等学校理科卒業
昭和10年(1935年)	25歳	東京帝国大学工学部建築学科卒業
昭和10年(1935年)～21年(1946年)	25～36歳	大阪市役所(建築部)
昭和15年(1940年)	30歳	大阪市技師
昭和21年(1946年)～22年(1947年)	36～37歳	復興建築助成株式会社
昭和21年(1946年)	36歳	復興建築助成株式会社技術課長に就く
昭和22年(1947年)	37歳	経済安定本部建設局に入る
昭和27年(1952年)	42歳	行政管理庁に転属
昭和31年(1956年)	46歳	文化財保護委員会(文部省)に出向し、国立劇場建築主査に任ぜられる
昭和40年(1965年)	55歳	東京大学より工学博士を授けられる
昭和41年(1966年)	56歳	文部省退官
昭和42年(1967年)～54年(1979年)	57～69歳	東海大学教授
—	—	日本建築専門学校非常勤講師
—	—	劇場技術コンサルタント

「ライフワークを持って」 小泉嘉四郎

東海大学で教職に就きまして以来、満12年間学究を主とした生活続けることを許していただきました。

その間には前記したように、日本劇場技術協会 (JITT) と OSITT 日本センターとの二つの専門職能研究団体を設立育成してまいりまして、斯界の進歩発展と海外との交流風通しにいささか貢献できましたことを愉快に思っております。

と同時に、我が国の劇場建築計画学のレベルアップにも、かなり役立ったものと信じております。

その10数年間の斯学の進歩の度合を検証するためには、当時の斯学のレベルを示しております拙著『劇場舞台設計計画』や現行版『建築設計資料集成』の劇場部分などと、本年一月号の『建築雑誌』の巻末に付せられました『多目的ホール舞台設計資料』5・6や近い将来に刊行予定の改訂版『建築設計資料集成』の劇場部分を比較検討されることによって、歴然とすることでしょう。

学生諸君に対して一言捧げたいと存じます。

大学における学問といえども、先人の研鑽した学問的蓄積のすべてを学びとるということは不可能なことでありましょう。

ただ大学における学問とは、「学問の仕方を学ぶ」ことにあるものと思います。

このことさえ学びとっておけば、諸君が大学を卒業されて以後も生涯学問を継続してゆくことができ、また先人の蓄積をさらに伸ばせてゆくことができるのです。

それから、なるべく早い時期に自分自身のライフワーク的テーマを見付けられたいということです。

幕末から明治初期にかけての啓蒙思想家福沢諭吉先生も、その「心訓七ヶ条」の第一番目に「世の中で一番楽しく立派な事は一生涯を貫く仕事を持つという事です」と諭しておられますが、正にその通りであると思います。

自分のライフワークが定まったからといって、必ずしも大学卒業早々にその専攻を生かせる職業に就くことができるとは限りません。

自分のライフワークと生活の糧をうる職業とが一致できないのがむしろ通例で、世の大多数の人々の状態であるでしょう。

しかしどのような途であれ、一つの途を10年も20年も専攻しておれば、必ずやその途のエキスパートとして世間も認めてくれるようになるはずです。

そしてその間にはまた、そのライフワークを生かしながら生活の糧を与えてくれる就職のチャンスも何度かは訪れるものです。

このようにしてライフワークを貫きながら生活の維持が保証されるならば、それは福沢先生の言葉のようにこの上もない人生であると考えます。

私自身もこのような意味で、実に幸せ者であったと深く感謝しております。

いまここに大学の正規の教員である地位を去ることになりましたが、私のライフワークは今後とも変わりなく研究を続けてゆくつもりでおりますし、斯界における社会的活動には一層励むつもりでおります。

(出典1)

学会及び社会における活動

昭和15年	日本建築学会会員となる
昭和33年	日本演劇学会会員となる
昭和37年	日本建築学会建築計画委員会劇場分科会幹事となる
昭和41年	国際演劇協会(ITI)日本センター会員となる
昭和42年	ITI 第12回総会(於ニューヨーク)劇場設計国際会議(モントリオール)より招請され日本代表として出席し、帰途米欧の劇場施設を視察して巡る
昭和44年	日本劇場技術協会(JITT)の設立に参画し、その専務理事に就く
昭和45年	ソ連、ドイツ劇場視察のため渡航す
昭和46年	舞台美術劇場技術国際組織(OISTT)第2回総会(於プラグ)にオブザーバーとして出席す
昭和48年	OISTT 日本センターの設立に尽力し、その事務局長となる
昭和49年	欧州劇場技術視察団を組織し、そのコーディネーターを勤める
昭和50年	第2回欧州劇場技術視察団のコーディネーターとなる
昭和51年	第3回欧州劇場技術視察団のコーディネーターとなる。NHK 美術センターの依頼により、H.Burris-Meyer&E.C.Cole 共著の“SCENERY FOR THE THEATRE”の翻訳に着手す。
昭和52年	OISTT 日本センターの組織替拡充に伴い、その副会長に就く
昭和53年	前記の翻訳完成し、日本放送出版協会より『舞台装置技術全書』と邦書名を付して発刊される。該書は、日本翻訳家協会より昭和53年度の翻訳出版文化賞を授けられた

学術的論文

昭和17年8月	劇場余録Ⅰ(芝居の起源、近世劇場の規模、舞台機構の創案)	建築と社会
昭和17年12月	劇場余録Ⅱ(劇場の火災、亀甲梁、猿若町とその三座)	建築と社会
昭和32年1月	日本の劇場抄史	国際建築
昭和32年1月	劇場年表	国際建築
昭和32年1月	劇場建築用語解	国際建築
昭和32年12月	建築設計競技規準と国立劇場	国際建築
昭和33年7月	コンペ 論議批判	建築文化
昭和33年8月	国立劇場の基本構想について	建築雑誌
昭和33年12月	シドニー国立オペラハウス設計競技 募集規定と質疑応答集(翻訳)	文化財保護委パンフ
昭和34年6月	劇場の梁間と奈落	世界建築全集 3
昭和34年11月	演劇の類別概説	公共建築
昭和34年11月	舞台建築家・並木正三	公共建築
昭和35年5月	劇場・映画館	建築学ポケットブック
昭和36年3月	トロント市庁舎設計競技規定と質疑応答集(翻訳)	文化財保護委パンフ
昭和36年8月	川柳歌舞伎舞台考	大阪府建築士会会報

昭和37年2月	ミカドの見世物見物	国際建築
昭和37年10月	歌舞伎の表と裏	国際建築
昭和37年10月	デュッセルドルフ演劇場コンペ規定(翻訳)	国際建築
昭和37年10月	エッセンオペラハウスコンペ規定(翻訳)	国際建築
昭和37年10月	海外国立劇場概要一覧	国際建築
昭和37年10月	「夏のおどり」の滝と噴水	国際建築
昭和38年1月	ザルツブルグ新祝祭劇場の舞台機構	国際建築
昭和38年1月	ハンブルグ国立オペラハウスの道具製作場	国際建築
昭和38年1月	西ドイツ舞台設計基準(翻訳)	国際建築
昭和38年1月	ヨーロッパ諸劇場の舞台設備一覧	国際建築
昭和38年7月	日・英・独・仏・伊語対照劇場技術用語集	建築雑誌
昭和39年1月	日生劇場舞台設備の批判	近代建築
昭和40年5月	歌舞伎舞台の特質と定型(研究発表)	日本演劇学会大会
昭和40年10月	ちよぼ床と下座の意義(研究発表)	日本建築学会大会
昭和41年11月	劇場の進化史	月刊文化財
昭和41年11月	リンカーン・センター劇場群	近代建築
昭和42年4月	劇場の設計要領 1. 客席篇	建築士
昭和42年5月	劇場の設計要領 2. 舞台篇	建築士
昭和42年6月	劇場の設計要領 3. 楽屋篇	建築士
昭和43年1月	モーツアルト生誕地のことなど	科学朝日
昭和43年1月	劇場の先輩と後輩と	科学朝日
昭和44年9月	米欧の劇場を巡ってみて	劇場技術
昭和44年12月	ドイツ下喜寿技術工業規格改補案(翻訳)	劇場技術
昭和45年4月	最新のドイツ劇場	近代建築
昭和45年6月	米欧の劇場建築(講演)	日本劇場技術協会
昭和45年6月	前衛劇場:ルナホールを見て	近代建築
昭和45年9月	再びドイツの劇場を見て巡って	劇場技術
昭和45年10月	多目的ホール設計の問題点(問題提起)	日本建築学会大会研究協議会
昭和47年10月	東洋の劇場	東海大学紀要
昭和47年10月	新しい多目的ホールの実例	建築設備
昭和49年1月	世界のオペラ劇場	劇場技術
昭和49年1月	ベオグラードオペラハウス・コンペ規定(翻訳)	劇場技術
昭和49年10月	欧州舞台技術に何を学ぶべきか	劇場技術

昭和50年4月	ソフィアオペラハウス・コンペ規定(翻訳)	劇場技術
昭和50年4月	日本的舞台のマンネリズム	近代建築
昭和50年10月	プロセニウム舞台の現代的段階	近代建築
昭和53年4月	OISTT 劇場国際コンペ経過概報	劇場技術
昭和53年4月	舞台空間と舞台機構設備	日本演劇学会紀要
昭和54年1月	多目的ホール設計資料5 舞台機構設備篇	建築雑誌

著書、共同執筆書

『世界建築全集』	昭和34年6月	平凡社
『建築学ポケットブック』	昭和35年5月	オーム社
『建築設計資料集成 II』	昭和35年12月	丸善
『劇場舞台設計計画』	昭和40年2月	近代建築社
『近代日本建築学発達史』	昭和47年10月	丸善
『ブリタニカ国際大百科事典』	昭和48年3月	TBS ブリタニカ社
『万有百科大辞典』	昭和49年8月	小学館
『建築大辞典』	昭和49年10月	彰国社
『舞台装置技術全書』	昭和53年4月	日本放送出版協会

情報提供＝小泉家

出典1:『退任の挨拶』昭和54年(東海大学退職時)《一部句読点などを追加しました。》

2005年1月11日更新●2005年1月28日更新:経歴・本文●2005年4月20日更新:本文、出典●2005年9月15日更新:
本文、学術的論文●2006年6月23日更新:タイトル●